

1. 件名：福島第一原子力発電所におけるRO濃縮水移送配管フランジからの漏えい事象に係る面談
2. 日時：令和2年1月9日（木）16時05分～16時50分
3. 場所：原子力規制庁 9階会議室
4. 出席者  
原子力規制庁 原子力規制部  
東京電力福島第一原子力発電所事故対策室  
知見主任安全審査官、松井安全審査官、田上係員、高木技術参与  
東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー  
プロジェクト計画部 担当1名  
福島第一原子力発電所 担当2名

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、昨年2月15日に発生したH1西エリアにおけるRO濃縮水移送配管フランジからの漏えいの原因について、当初、遮水特殊ポリマー保温（STOP）の自重による負荷が掛かったことと推定していたが、昨年11月12日の面談でのコメントを受けて再度検討した結果等について、資料に基づき説明があった。
  - フランジ面間距離について、配管施工時の面間測定結果に対して、漏えい発生後の測定では1mm広がっている事が確認されたため、漏えいは面間が広がったことにより発生したと考えている
  - あらためて検討した推定原因
    - ✓ 漏えい箇所付近に80kgの人が乗った場合のフランジ面間の広がりを計算したところ、ボルトの伸び量が0.0015mm程度となったことから、フランジ下部の面間が1mm広がった原因は、当初挙げていたSTOPの自重（約10kg）等の荷重によるものではないと推定
    - ✓ STOP施工時に面間測定を実施していなかったため、いつの時点で面間が広がったのか分からない状況ではあるものの、何からの要因（STOP施工中の配管凍結、ぶつかりによる衝撃等）によるものと推定
  - 対策
    - ✓ 今後STOP施工する箇所については、STOP施工前に面間測定とボルトの緩み確認を実施する
    - ✓ 冬場にSTOP施工する際は、仮保温の取付けに注意する
    - ✓ 既にSTOP施工した箇所については、面間測定を実施していなかったことから、線量測定を行い内部での漏えいの有無を確認する

○原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認した。

6. その他

資料：H1西エリアにおけるRO濃縮水移送配管フランジからの漏えい発生について